

愛知県立看護大学の教育改革に関する調査(1)

——本学大学院への進学及び修了者雇用に関するニーズの概括——

小松万喜子¹, 平井さよ子², 曾田 陽子¹, 古田加代子³, 岡田 由香⁴, 高橋 弘子⁴,
保田ひとみ⁴, 鎌倉やよい⁵, 川田智恵子⁶

A Report on Educational Reform in Aichi Prefectural College of Nursing & Health (1)

—— Needs of Nurses and Nurse Administrators to Study at the Graduate School of Nursing ——

Makiko Komatsu¹, Sayoko Hirai², Yoko Sota¹, Kayoko Furuta³, Yuka Okada⁴, Hiroko Takahashi⁴,
Hitomi Boda⁴, Yayoi Kamakura⁵, Chieko Kawata⁶

キーワード：看護系大学院，愛知県，進学ニーズ，雇用ニーズ，看護師

はじめに

保健医療福祉を取り巻く情勢ならびに国民や社会の意識の著しい変化のなかで，看護職が社会からの期待と信頼にこたえ得るためには，看護基礎教育および大学院教育のさらなる充実が求められている。愛知県立看護大学（以下，本学）は，昭和43年に設置された愛知県立看護短期大学を母体として，平成7年に4年制看護大学として開設された。平成11年には看護学専攻の大学院修士課程が設置され，以来，着実な教育実践を重ねるとともに，県民や社会，看護職者自身のニーズに対応した大学院教育のあり方を追求し，専門看護師認定課程，博士課程などの設置についても検討を進めてきた。

平成17年度博士課程小委員会では，こうした検討をより具体的なものとするために，本学大学院への看護職および学部生の進学に関する意見や，本学大学院修了者の雇用に関する意見を広く聴取する必要があると考え調査を実施した。本稿ではこの調査結果の概括を報告する。

I. 調査目的

愛知県内で働く看護職者と，本学の大学院修了生と大学院在学学生ならびに学部卒業生の，本学大学院への進学

に関するニーズを明らかにする。また，愛知県内の病院に勤務する看護管理者の大学院修了者の雇用に関するニーズを明らかにする。

II. 調査方法

1. 調査用紙の配布対象

調査用紙は以下の対象に配布した。配布総数は9179であった。

1) 愛知県内の病院で働く看護職7184人

各病院の看護部門責任者に調査の趣旨と方法を説明し，調査協力を依頼し同意が得られた25施設に勤務する看護職（准看護師を含む）を対象とした。

2) 愛知県内で働く助産師910人

各施設の施設長および助産師責任者に調査の趣旨と方法を説明し，調査協力を依頼し同意が得られた36総合病院，92開業医院，25開業助産院で働く助産師を対象とした。

3) 愛知県内で働く保健師180人

各施設の保健師管理（相当）職に調査の趣旨と方法を説明し，調査協力を依頼し同意が得られた11市町村，4

¹愛知県立看護大学（基礎看護学），²愛知県立看護大学（看護教育・管理学），³愛知県立看護大学（地域看護学），⁴愛知県立看護大学（母性看護学・助産学），

⁵愛知県立看護大学（成人看護学），⁶愛知県立看護大学（学長）

政令市・中核保健所，3県保健所で働く保健師を対象とした。

4) 愛知県内で働く看護教員353人

各施設の所属長に調査の趣旨と方法を説明し，調査協力を依頼し同意が得られた29看護専門学校と1看護系大学，ホームページ上で教員構成が公開されている4看護系大学で働く看護教員（大学教員は講師・助手）を対象とした。短期大学は設置数が少なく回答施設が特定されるおそれがあるため，短期大学教員は対象から除外した。

5) 愛知県内の総合病院の看護管理者97人

97病院の看護部門責任者（1施設1名）を対象とした。

6) 本学修士課程修了生・学部卒業生・大学院在学学生455人

同窓会に調査の趣旨と方法を説明し同窓会名簿使用許可を得て，住所不明者・住所掲載非承諾者を除いた者を対象とした。

2. 調査期間

平成17年6月中旬から7月下旬

3. 調査方法

1) 手続き

無記名自記式質問紙と調査協力依頼書を，対象に直接または施設を通して配布し，同意が得られた方から質問紙を回収した。

2) 調査内容

全対象に，属性として，年齢，取得免許，学歴，職位，大学院入学資格審査の認知度などを，本学大学院への進学に関するニーズとして，現在の修士課程への進学希望，

専門看護師（以下，CNS）などのコース新設後の進学希望，博士課程新設後の進学希望，大学院進学時の仕事の継続，進学決定に際しての問題，大学院の各課程への意見などを質問した。看護管理者には，加えて，大学院修了者の雇用に関するニーズとして，現在の修士課程への進学の必要性，CNSなどの新設コースへの進学の必要性，新設博士課程への進学の必要性，大学院進学時の仕事の継続の可否，進学時の仕事の配慮，大学院修了者の採用と採用後の配置，過去5年間の大学院修了者の雇用状況などを質問した。

希望を調査した修士課程新設コースは，CNSコース，助産師養成コース，認定看護管理者コースで，助産師養成コースは，修士課程で助産師国家試験受験資格取得が可能なコースである。また，認定看護管理者試験は現行の修士課程修了者でも受験可能であるが，科目を充実させた新設コースを検討中である。質問紙には以上の説明を加えた。

4. 倫理的配慮

対象に対して，調査目的と方法，調査協力は自由意思に基づくこと，調査に協力しないことによる不利益はないこと，調査は無記名で個人は特定されないこと，データは調査目的以外に使用しないこと，結果の公表時には個人や施設が特定されないこと，質問紙の提出をもって同意の確認とすることを文書で説明した。

5. 有効回答数と分析対象の区分

質問紙の配布数・回収数・有効回答数を表1に示した。有効回答は6006人から得られた。このうち，「病院で働く看護職」5122人の取得免許をみたところ，准看護師は36人と少なかったため分析対象から除くことにした。また，助産師免許を有する198人は大学院における助産師養成課程設置に関する意見の傾向が免許を持たない看護

表1 配布数・回収数・有効回答数

項目	単位：人（％）							
	看護 管理者	病院 の看護職	助産師	保健師	教員	大学院 修了・在学生	学部 卒業生	計
配布数	97	7184	910	180	353	62	393	9179
回収数	59 (60.8)	5243 (73.0)	405 (44.5)	111 (61.7)	192 (54.4)	35 (56.5)	82 (20.9)	6127 (66.8)
有効回答数	59 (100.0)	5122 (97.7)	405 (100.0)	111 (100.0)	192 (100.0)	35 (100.0)	82 (100.0)	6006 (98.0)

職と異なる可能性があると考え、「助産師」の分析区分に移動した。

6. 集計および分析方法

項目ごとに対象別および全体の結果を単純集計し傾向を分析した。愛知県内の看護職者のニーズは、県外就職者を含む大学院修了生および大学院生と学部卒業生を除外した5853人について分析した。

Ⅲ. 結果

1. 対象の背景

調査に回答が得られた対象のうち、愛知県内で働く看護管理者、病院で働く看護師（以下、病院看護師）、助産師、保健師、教員の年齢と学歴、大学院入学資格審査制

度（専修学校・各種学校卒業者に適用）の認知度を表2に示した。

年齢は、病院看護師は20歳代が2643人（54.1%）と多いが、助産師と保健師は20～40歳代、教員は30～50歳代に分散し、看護管理者は50歳代が53人で89.8%を占めた。

学歴は、専修学校・各種学校が4151人（70.9%）と多く、短期大学758人（13.0%）、大学838人（14.3%）、修士課程54人（0.9%）、博士課程1人（0.01%）であった。

大学院入学資格審査制度の認知度は、よく知っている者は573人（9.8%）と少なく、知っているが条件は知らない者2791人（47.7%）、知らない者2464人（42.1%）で、大学院入学の門戸を広げる資格審査の制度は十分に知られていないことが明らかになった。

表2 愛知県内で働く看護職者の背景

		単位:人(%)				
項目	看護管理者 n=59	病院看護師 n=4888	助産師 n=603	保健師 n=111	教員 n=192	計 n=5853
年齢	平均年齢	55.4	31.2	37.2	36.5	43.0
	20歳代	1 (1.7)	2643 (54.1)	177 (29.4)	32 (28.8)	6 (3.1)
	30歳代	0	1354 (27.7)	195 (32.3)	38 (34.2)	64 (33.3)
	40歳代	3 (5.1)	595 (12.2)	148 (24.5)	28 (25.2)	76 (39.6)
	50歳代	53 (89.8)	244 (5.0)	55 (9.1)	13 (11.7)	45 (23.5)
	60歳以上	2 (3.4)	5 (0.1)	21 (3.5)	0	0
	無回答	0	47 (1.0)	7 (1.2)	0	1 (0.5)
	無回答	0	47 (1.0)	7 (1.2)	0	1 (0.5)
学歴	専修・各種学校	38 (64.4)	3631 (74.3)	329 (54.5)	62 (55.9)	91 (47.4)
	短期大学	4 (6.8)	556 (11.4)	155 (25.7)	14 (12.6)	29 (15.1)
	大学	13 (22.0)	639 (13.1)	98 (16.3)	35 (31.5)	53 (27.6)
	修士課程	3 (5.1)	24 (0.5)	8 (1.3)	0	19 (9.9)
	博士課程	0	1 (0.02)	0	0	0
	無回答・他	1 (1.7)	37 (0.7)	13 (2.2)	0	0
	よく知っている	23 (39.0)	407 (8.3)	83 (13.8)	9 (8.1)	51 (26.5)
	知っているが 条件は知らない	34 (57.6)	2313 (47.3)	292 (48.4)	53 (47.7)	99 (51.6)
大学院入 学資格審 査制度の 認知度	知らない	2 (3.4)	2149 (44.0)	222 (36.8)	49 (44.2)	42 (21.9)
	無回答	0	19 (0.4)	6 (1.0)	0	0
	無回答	0	19 (0.4)	6 (1.0)	0	0

2. 本学大学院への進学に関するニーズ

1) 現在の本学大学院修士課程への進学希望

現在の本学大学院修士課程への進学希望を表3に示した。進学したい178人、できれば進学したい1820人をあわせると、1998人(33.7%)が進学を希望していた。特に希望が多かったのは教員であり、100人(52.1%)と半数以上が希望していた。その他の対象も、職種などに関係なく30%以上が進学を希望していた。

2) 修士課程に新設コースを設置した場合の進学希望

本学修正課程にCNSコース、助産師養成コース、認定看護管理者コースを新設した場合の進学希望を表4に示した。進学したい419人、できれば進学したい2558人をあわせると、2977人(50.0%)が進学を希望しており、現在の修士課程への進学希望を大きく上回った。CNSの希望領域をみると、がん看護が最も多く1030人、次いで、在宅看護678人、老人看護509人、小児看護504人であった。がん看護を希望する者は病院看護師に多く、母性看護は助産師、地域看護は保健師の希望が多かった。助産師養成コースは294人、認定看護管理者コースは488人が希望しており、助産師免許を有する助産師で助産師養成コースを希望する者も34人みられた。看護管理者は認定看護管理者コースを希望する者が多かった。

護は助産師、地域看護は保健師の希望が多かった。助産師養成コースは294人、認定看護管理者コースは488人が希望しており、助産師免許を有する助産師で助産師養成コースを希望する者も34人みられた。看護管理者は認定看護管理者コースを希望する者が多かった。

3) 博士課程を新設した場合の進学希望

博士課程を新設した場合の進学希望を表5に示した。進学したい122人、できれば進学したい488人、分野により進学したい1297人をあわせると、1907人(31.9%)が進学を希望していた。特に修士課程修了者と在学大学院生の希望率が28人(80.0%)と高く、次いで、教員が102人(53.1%)であった。

3. 大学院に進学した場合の仕事の継続

1) 大学院に進学した場合に仕事を継続するか

大学院に進学した場合の仕事の継続について、大学院への進学を希望する愛知県内で働く看護職の考えを表6

表3 現在の愛知県立看護大学大学院(修士課程)への進学希望

単位:人(%)							
項目	看護管理者 n=59	病院看護師 n=4888	助産師 n=603	保健師 n=111	教員 n=192	学部卒業生 n=82	計 n=5935
進学を希望する	20 (33.9)	1576 (32.2)	230 (38.1)	40 (36.0)	100 (52.1)	32 (39.0)	1998 (33.7)
内訳							
進学したい	3	123	28	5	19	0	178
できれば進学したい	17	1453	202	35	81	32	1820

表4 愛知県立看護大学大学院に修士課程新設コースを設置した場合の進学希望

単位:人(%)								
項目	看護 管理者 n=59	病院 看護師 n=4888	助産師 n=603	保健師 n=111	教員 n=192	大学院修 了・在学生 n=35	学部 卒業生 n=82	計 n=5970
進学を希望する	22 (37.3)	2480 (50.7)	256 (42.5)	35 (31.5)	118 (61.5)	18 (51.4)	48 (58.5)	2977 (50.0)
内訳								
進学したい	2	335	32	4	24	18	4	419
できれば進学したい	20	2145	224	31	94	0	44	2558
希望 領域	C							
	がん看護	2	941	35	4	29	3	1030
	在宅看護	1	628	20	6	14	1	678
	老人看護	1	464	14	5	19	1	509
	小児看護	0	389	93	7	9	1	504
	地域看護	5	411	31	21	7	3	493
	精神看護	2	385	15	3	17	1	428
	母性看護	0	105	225	6	17	4	365
	成人看護慢性	1	317	1	6	21	2	354
	クリティカルケア看護	4	251	8	1	17	3	288
助産師養成コース		0	240	34	9	5	1	294
認定看護管理者コース		17	388	41	3	25	5	488

表5 愛知県立看護大学大学院に博士課程を設置した場合の進学希望

単位：人（％）								
項目	看護 管理者 n=59	病院 看護師 n=4888	助産師 n=603	保健師 n=111	教員 n=192	大学院修 了・在学生 n=35	学部 卒業生 n=82	計 n=5970
進学を希望する	14 (23.7)	1457 (29.8)	229 (38.0)	43 (38.7)	102 (53.1)	28 (80.0)	34 (41.5)	1907 (31.9)
内訳	進学したい	1	86	16	2	5	0	122
	できれば進学したい	3	361	69	8	10	9	488
	分野により進学したい	10	1010	144	33	13	25	1297

表6 大学院に進学した場合の仕事の継続

単位：人（％）						
項目	看護管理者	病院看護師	助産師	保健師	教員	計
継続する	13 (68.4)	973 (49.7)	154 (53.3)	28 (57.1)	72 (58.1)	1240 (50.9)
辞職する	4 (21.1)	524 (26.8)	70 (24.2)	12 (24.5)	32 (25.8)	642 (26.3)
わからない	2 (10.5)	461 (23.5)	65 (22.5)	9 (18.4)	20 (16.1)	557 (22.8)
計	19 (100.0)	1958 (100.0)	289 (100.0)	49 (100.0)	124 (100.0)	2439 (100.0)

表7 仕事を継続する方法

単位：人						
方法	看護管理者 n=13	病院看護師 n=973	助産師 n=154	保健師 n=28	教員 n=72	計 n=1240
仕事の調整が可能なら継続する	7	702	114	14	49	886
現状のまま継続する	7	226	33	13	21	300
その他	0	24	5	1	1	31

表8 仕事を辞職する理由

単位：人						
理由	看護管理者 n=4	病院看護師 n=524	助産師 n=70	保健師 n=12	教員 n=32	計 n=642
勤務形態や就業状況から難しい	1	371	41	8	24	445
学業に専念したい	1	127	26	3	6	163
地理的問題がある	0	75	9	4	8	96
服務規程による	4	42	9	1	5	61
その他	1	1	17	0	0	19

に示した。仕事を継続する1240人（50.9%）、辞職する642人（26.3%）で、継続希望者が多かった。

2) 仕事を継続する方法

仕事を継続するとした者に、継続方法を質問した結果を表7に示した。仕事の調整が可能なら仕事を継続する

が886人（継続するとした者の71.5%）と多かった。

3) 仕事を辞職する理由

仕事を辞職するとした者に、辞職の理由を質問した結果を表8に示した。最も多かったのは勤務形態や就業状況から継続は難しい445人（辞職するとした者の69.3%）

表9 大学院進学の意味決定時の問題と大学への要望

項目	件数	主な記載内容	主な記載内容
意思決定時の問題	2613	経済的問題 (914)	学費、生活費、収入がなくなること
		仕事との両立 (501)	仕事との両立、勤務状況、職場の状況・風土
		家庭との両立 (338)	家庭の問題、家事・育児、家族の協力
		自分自身の問題 (256)	年齢、体力、学力・英語力、やる気、継続力の不安、学びたい分野が決まらない、キャリアプラン、自己教育力
		教育課程の内容・制度 (199)	興味がある内容か、臨床に活動できる内容か、講義の充実度、夜学・通信課程か、働きながら受講できる時間帯か
		時間の確保 (112)	時間、時間の確保
		再就職の不安 (101)	修了後の就職、再就職の可能性、修了後の賃金・処遇
		交通の利便性 (86)	通学困難、通学距離が遠い、キャンパスの立地条件
		入学試験 (69)	入学資格、試験の難度、英語受験
		教員の質 (31)	分野に精通した教授がいるか、教授陣の実績
		その他 (6)	
大学への要望	422	仕事との両立可能な環境づくり (207)	夜間・土日祭日開講、通信課程、e-ラーニング、集中講義、サテライトキャンパス科目を増やす、修業年限延長、事務・大学・図書館の対応・利用時間の延長、現場に関連のある教育研究内容
		経済的支援制度の整備 (60)	奨学金制度、助成金制度、授業料減額、長期履修制度
		教育内容の充実 (44)	教授体制、フィールドの確保、実践に生かせる教育内容
		情報提供 (42)	詳しい情報・教育内容の実際を教えて欲しい、情報が少ない
		入学資格・試験の検討 (33)	社会人入試枠の拡大、入学しやすく修了を厳しくしてほしい、学力・研究業績だけでなく熱意を評価してほしい
		託児施設の設置 (20)	託児施設、保育施設
		その他 (16)	専門職のキャリアアップの機会を増やしてほしい、他の大学との交流を増やしてほしい

で、学業に専念したいため辞職を考える者も163人みられた。

4. 大学院進学の意味決定時の問題と大学への要望

愛知県内で働く看護職が大学院進学時に問題となると考えていることと大学への要望を表9に示した。3035件の自由記載が得られ、最も多かったのは経済的問題914件であった。次いで、仕事との両立501件、家庭との両立338件、自分自身の問題（年齢や学力など）256件で、教育課程の内容・制度も199件あげられていた。大学への要望としては、仕事との両立可能な環境づくり（夜間開講・土日開講・集中講義、図書館の利用時間の延長など）207件、経済的支援制度の整備（奨学金・授業料免除・長期履修制度など）60件、情報提供（入試や教育内容など）42件、入学資格・試験の検討（社会人入学定員枠の拡大など）33件などが記載されていた。託児施設を求める声も20件あった。

5. 各コース・課程設置に関する意見

1) CNS・認定看護管理者コース設置に関する意見

CNS・認定看護管理者コース設置に関する意見を表10に示した。記載は1185件あり、設置に賛成する意見が714件と最も多かったが、否定的意見も45件みられた。

2) 助産師養成コース設置に関する意見

助産師養成コース設置に関する意見を表11に示した。記載は590件あり、設置に賛成する意見が362件と多かった。否定的な意見は70件あり、大学院に設置する必要性がわからないなどの意見が記載されていた。

3) 博士課程設置に関する意見

博士課程設置に関する意見を表12に示した。記載は330件あり、設置に賛成する意見が170件と多い一方で、よくわからないとする者も106件と多かった。

表10 CNS・認定看護管理者コース設置に関する意見

項目	件数	主な記載内容
設置に賛成する意見	714	賛成・是非設置して欲しい、設置は必要である 質向上・専門性を高めるために必要である 愛知県内に設置することは有意義である 学びたい・学ばせたい、興味がある 進学したい人が増える 看護師の地位向上のためにも必要である
設置方法に関する希望	121	仕事との両立可能な制度にして欲しい コースを増やして欲しい 学費を安くして欲しい 育児と両立可能にして欲しい
情報提供に関する意見	96	コースや資格審査の情報が欲しい 制度・資格がわからない
入試に関する意見	79	コース定員を増やして欲しい 臨床経験を重視して欲しい 入学資格・門戸を拡げて欲しい 試験の難易度が高い
教育内容に関する意見	72	教育内容に関する意見 修士課程とCNSコースのあり方に関する意見 教授陣を充実させてほしい
修了後について	47	修了後に資格が活かされる体制が必要 修了後のフィールドの確保が必要である
否定的意見	45	設置の必要性はない 興味がない
職場の支援について	5	職場の支援、修学のための制度づくりが必要
その他	6	

表11 助産師養成コース設置に関する意見

項目	件数	主な記載内容
設置に賛成する意見	362	設置には賛成である 大学院に助産師養成コースができるのは良い 質の向上・専門性が高まる 助産師をめざす人には良いことである 助産師を学ぶ門戸が広がる 少子化だからこそ必要である
制度の意義がよくわからない	97	よくわからない・もっと考える必要がある 大学で取得できる資格との違いがわからない 制度自体がよくわからない
否定的な意見	70	設置の必要性はない 大学院に設置する必要性がわからない 少子化のため必要がない
教育内容に関する希望	60	幅広い視野の人材を育成して欲しい 指導的立場を取れる人材を育成してほしい
修了後について	1	民間病院に必要なが受入体制が未整備

6. 看護管理者の大学院修了者の雇用に関するニーズ

1) 部下を進学させたい大学院のコース

看護管理者が部下を進学させたいと考えるコースを表13に示した。現在の修士課程へは52人(88.1%)、修士課程に新設コースを設置した場合は55人(93.2%)が進学

させたいと回答していた。認定看護管理者コース希望が44人と最も多く、次いで、がん看護37人であった。博士課程が設置された場合は43人(72.9%)が部下を進学させたいと回答した。

表12 博士課程設置に関する意見

項目	件数	主な記載内容
設置に賛成する意見	170	設置に賛成である 進学希望者が沢山いると思う 修士課程があるなら設置した方がよい 看護学の向上のために必要である 看護職の地位向上のために必要である
わからない	106	よくわからない 制度自体がよくわからない 修士課程との違いがわからない
否定的な意見	35	設置の必要性はない 看護師にあまり位をつけてほしくない 進学希望者が増えるとは思えない
教育内容について	18	理論家よりは臨床現場の変革者を育てて欲しい 臨床でモデルとなれる人材育成を望む 臨床と学問の一体化を促進する方向性を期待する
修了後について	1	病院に必要なだが受入体制が未整備

表13 看護管理者が部下を進学させたい大学院の教育課程

			n=59人	
項目			人（％）	
現在の修士課程への進学	進学させたい		52(88.1)	
	内訳	ぜひ進学させたい	9(15.3)	
		できれば進学させたい	43(72.9)	
修士課程の新設コースへの進学	進学させたい		55(93.2)	
	内訳	ぜひ進学させたい	16(27.1)	
		できれば進学させたい	39(66.1)	
	希望領域	C N S コ ー ス	がん看護	37
			老人看護	28
			成人看護	19
			クリティカルケア看護	18
			地域看護	15
			在宅看護	14
			小児看護	14
			母性看護	12
			精神看護	11
			助産師養成コース	8
認定看護管理者コース			44	
新設の博士課程への進学	進学させたい		43(72.9)	
	内訳	ぜひ進学させたい	2(3.4)	
		できれば進学させたい	41(69.5)	

2) 部下が大学院へ進学した場合の仕事の継続に関する看護管理者の考え方

部下が大学院へ進学した際の仕事の継続についての看護管理者の考え方を表14に示した。服務規程に抵触するため辞職が必要と20人(33.9%)が回答し、服務規程に抵触しないが継続は難しいと19人(32.2%)が考えていた。服務規程に抵触せず継続可能であると回答した者は18人(30.5%)であった。

3) 大学院修了者の採用方針と雇用状況

看護管理者の大学院修了者採用方針を表15に示した。積極的に採用したいとする者は、認定看護管理者で30人(50.8%)と半数を占め、CNSは27人(45.8%)であった。現在の修士課程修了者の採用は、学歴を考慮せずに採用審査を行うとする者が37人(62.7%)と多く、博士課程修了者の採用についても、学歴を考慮せずに採用審査を行うとする者は34人(57.6%)と多かった。

CNS採用後に配置を考慮するか否かでは、配置を考慮すると回答した者が35人(59.3%)と多かった。

表14 部下の大学院進学時の仕事の継続に関する看護管理者の考え方

		n=59人	
	項目	人	(%)
大学院進学時に仕事の継続は可能か	服務規程に抵触するため辞職が必要	20	(33.9)
	服務規程に抵触しないが継続は難しい	19	(32.2)
	服務規程に抵触せず継続可能である	18	(30.5)
	無回答	2	(3.4)
部下が進学した際に仕事継続を望むか	継続を望む	17	(28.8)
	本人の意思に任せる	11	(18.6)
	継続を望まない	1	(1.7)
	その他	2	(3.4)
	無回答	28	(47.5)
部下が進学した際に対応をするか	本人の希望があれば可能な範囲で対応する	28	(47.5)
	施設の方針として何らかの対応をする	5	(8.4)
	特に配慮しない	3	(5.1)
	その他	2	(3.4)
	無回答	21	(35.6)

表15 大学院修了者の採用についての看護管理者の考え方

n=59人					
修了者		積極的に採用したい	学歴を考慮せず採用審査を行う	採用は消極的	その他・無回答
現在の修士課程修了者		18(30.5)	37(62.7)	2(3.4)	2(3.4)
修士課程の新設コース修了者	CNS	27(45.8)	28(47.5)	1(1.7)	3(5.1)
	助産師	18(30.5)	19(32.2)	5(8.5)	17(28.8)
	認定看護管理者	30(50.8)	25(42.4)	2(3.4)	2(3.4)
新設の博士課程修了者		15(25.4)	34(57.6)	6(10.2)	4(6.8)

大学院修了者の実際の雇用状況を見ると、CNSのない修士修了者は、13施設(22.0%)に各1人、3施設(5.1%)に各2人、1施設(1.7%)に3人採用されていた。CNSは2施設(3.4%)に各1人、博士課程修了者は2施設(3.4%)に各1人が採用されていた。

IV. 考察

1. 本学大学院への進学希望状況

現在の本学大学院(修士課程)へは1998人(33.7%)が進学を希望しており、ニーズの高さがうかがえた。また、本学にCNSコース、助産師養成コース、認定看護管理者コースを新設した場合の進学希望者は2977人(50.0%)で、現在の修士課程への進学希望を大きく上回った。CNSの各分野は日本の医療や社会の状況に対応して、より高度で充実したケア提供を可能にするものであるが、CNSコースが認定されている専門看護師認定教育課程は平成17年3月現在で全国に17大学院60課程と少なく、進学ニーズを満たす状況にないことが、本学にCNSコースが新設された場合に進学を希望する者が多い理由の一つと考える。特にがん看護の希望者が多いこ

とは、愛知県内のがん患者届出数が増加傾向にあることとも関係しているのではないかと考えられる。

本学に博士課程を新設した場合の進学希望者は1907人(31.9%)で、現在の修士課程と同程度の希望数であった。修士修了者が少ない病院看護師、助産師においても博士課程進学の希望率は高く、向上心の強さがうかがえた。修士課程修了者と在学大学院生の希望率が高いことから、修士課程で修得した内容をさらに深化させるために、継続して学べる博士課程の設置が求められていると考える。

2. 愛知県内で働く看護職の大学院進学と仕事の継続

愛知県内で働く看護職の多くが大学院に進学しても仕事は継続したいと考えているが、一方で、継続するには仕事の調整が必要であり、現状のまま継続することは難しいと考えていた。看護管理者に対する調査では、看護管理者の約3割が、服務規程に抵触するため大学院進学時は辞職が必要と回答し、他の3割が、服務規程に抵触しないが継続は難しいと考えていた。これらの背景により、大学院への進学希望において「できれば進学したい」と回答する者が多い結果となったと考える。また、仕事

と進学のと立に不安を感じながらも仕事の継続を望む者が多い理由としては、経済的問題、修了後の再就職の不安などが影響しているものと思われた。看護職の進学ニーズと看護管理者の雇用ニーズが充足されるよう、仕事の両立が可能な体制を整備充実させることが大学院進学を支援する要となる。

3. 看護管理者の大学院修了者の雇用に関するニーズ

部下を大学院に進学させたいと考え、修了者の採用に積極的な考えを持つ看護管理者は多かった。この傾向は認定看護管理者とCNSコース修了者においてより顕著であったことから、看護管理者は大学院修了者に対して、高い専門性を有した看護実践力や看護管理能力を期待していることがうかがえる。他方、大学院修了者の雇用数は極端に低い実状にあり、看護職個々のニーズという観点からのみでなく、看護職が所属する病院組織の立場からも大学院修了者の雇用ニーズが高いことが明らかになった。

4. 本学大学院における今後の課題

1) 教育課程・教育内容の充実

新設コース・課程の設置に対しては賛成意見が多かったが、教育の方向性、教育内容、教員の資質を問う意見もみられた。一部には、設置の意義を疑問視する意見や否定的な意見もみられた。本学の教育がめざす方向性の検討は何よりも重要なものであり、新コース、新課程を設置する意義をより明確に示すことが求められている。

教育内容に関する意見には教員の充実を望む意見もあった。個々の教員の資質を高めることは重要であるが、愛知県内に看護系大学が6大学あるメリットを活かし、単位互換制度などが導入できれば、大学院生のニーズにそった教育内容の選択も可能になる。愛知県の特色を生かした大学院間の連携も検討していきたい。

2) 大学院への入学と修学を支援する制度の充実

大学への要望、コース・課程新設に関する意見においては、仕事や家庭との両立をはかりながら入学し修学できる制度や対応を求める意見が非常に多かった。具体的には、入試や教育内容などに関する情報提供、社会人入学定員枠の拡大などの入試制度の見直し、奨学金・授業料免除・長期履修制度などによる経済的支援、昼夜開講・土日開講・集中講義など開講、図書館の利用時間の延長などがあげられた。託児所など、大学の対応に限界があ

る要望もあった。条件整備による就学意欲の高い高度看護専門職者の入学促進は望ましいことではあるが、教員数、大学の物理的・経済的条件など容易に変えられないものもある。本学大学院がめざす教育理念・教育目標を柱にすえ、各々の制度や方策の利点・欠点を十分に吟味し、学習者のニーズにそった教育体制を検討していかなければならない。

3) 職場の理解と進学支援および修了者受入体制の整備

服務規程のために辞職をせざるを得ない施設もあり、また、職場の理解の必要性を求める意見も寄せられた。修了者の雇用や配置への不安、力の発揮される体制がないことを指摘する声も多かった。これらの課題は大学側の努力のみで解決するものではなく、職場の理解や体制の整備を促進することも急務である。各施設の服務規程の見直しや緩和、就労しながら進学できる勤務体制や職場風土の育成、修了者が専門的な実践力を発揮しうる再就職先・フィールド確保と雇用状態などが検討されるよう、各施設、行政などへの働きかける必要がある。

V. まとめ

愛知県内で働く看護職者と、本学の大学院修了生・学部卒業生・大学院在学学生を対象に、愛知県立看護大学大学院への進学および修了者の雇用に関するニーズを調査した結果、多くの看護職が大学院への進学を希望しながらも、進学体制を整えることに苦慮していることが明らかになった。看護管理者においても、部下の大学院進学への支援や修了者の雇用を望みながらも各施設の厳しい現状を感じていた。社会や医療の変化、看護職者自身のニーズに応えるためには、修士課程におけるCNSなどのコース新設、博士課程新設など、大学院教育課程の早急な充実と、社会人が就学しやすい制度の拡充の必要性が示唆された。

謝辞

業務多忙にも関わらず調査にご回答いただいた皆様、質問紙の配布・回収などにご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

[本稿は、調査の実施および分析を担当した教員がまとめたものである。]